

'91チャレンジカップ、圧倒的なリードで山形V5!

'91CMSCチャレンジカップ結果発表/クラブ別部門

'91年度のCMSCチャレンジカップの結果が、右表の通り確定しました。前号でお知らせした中間発表の段階では、白熱したポイント争いを展開してデッドヒートを繰り広げていた、CMSC青森とCMSC山形。僅差でリードしていたはずの青森に大差をつけて、結果は意外にも山形の圧勝。昨年に引き続き、2位以下を大きく引き離して山形がV5を達成しました。会長を務める小川日出生選手自ら各種競技で大活躍していますが、会長に負けじと続く若手選手の層の厚さが山形の強さの秘密でしょうか。

V6を目指して張り切るCMSC山形をはじめ、各支部の皆さんの今年の活躍に期待しています。

●クラブ別獲得ポイント		1～5月	6～8月	9～11月	12月	合計
1位	山形	574	466	797	23	1860
2位	青森	344	530	305	0	1179
3位	香川	378	346	82	0	806
4位	群馬	343	226	111	9	689
5位	札幌	301	212	142	0	655
6位	岐阜	230	147	264	0	641
7位	島根	142	144	53	16	355
8位	埼玉	175	90	58	0	323
9位	愛知	120	20	104	0	244
10位	大阪	—	16	124	0	140
11位	帯広	102	14	12	0	128
12位	岩手	8	70	32	0	110
13位	栃木	22	38	0	0	60
14位	仙台	3	0	16	0	19
	福島	—	—	—	—	—
	千葉	—	—	—	—	—

ラリードライバー部門、青森・栂沢宏之。ラリーナビゲーター部門、青森・石田隆雄。スラローム部門、香川・高竹優之。レース部門、山形・小川日出生の各選手に決定!

スラローム部門



高竹優之選手

榎田正文選手

宝田芳浩選手

最大の激戦区とされるこのスラローム部門を制覇したのは、昨年2位に甘んじた高竹優之選手(香川)。今年は鮮やかな活躍で、見事に栄冠を勝ち取りました。2位の榎田正文選手(岐阜)、3位の宝田芳浩選手(札幌)との今後の熱い戦いが大いに注目されます。

1位	高竹 優之	香川	370
2位	榎田 正文	岐阜	320
3位	宝田 芳浩	札幌	302
4位	鈴木 功敏	山形	246
5位	白井 修	香川	244
6位	赤羽 政幸	山形	242

レース部門



小川日出生選手

鈴木一彦選手

東江 誠選手

チャレンジカップで圧倒的な強さを誇った山形勢ですが、レース部門でも1～3位を独占。フレッシュマンシリーズでの気迫の逆転劇が印象的だった小川日出生選手が、今年も連続チャンプの座を守りました。2位の鈴木選手、3位の東江選手の活躍も期待されます。

1位	小川日出生	山形	440
2位	鈴木 一彦	山形	112
3位	東江 誠	山形	74
4位	長沢 太郎	埼玉	20
5位	瀬在 仁志	埼玉	18
5位	平井みつよ	埼玉	18

ラリー・ドライバー部門



栂沢宏之選手

大西康弘選手

渡辺俊昭選手

山形に続いて大活躍していた青森勢が、この部門では上位を占めました。1位に栂沢宏之選手、2位に大西康弘選手が入り、同位で山形の渡辺俊昭選手が入賞しています。昨年に比べ、渡辺選手の追い上げはかなり激しく、来年はさらに熾烈な戦いになりそうです。

1位	栂沢 宏之	青森	172
2位	大西 康弘	青森	146
2位	渡辺 俊昭	山形	146
4位	小林 正夫	群馬	102
5位	佐々木 透	愛知	93
6位	長沢 太郎	埼玉	75

ラリー・ナビゲーター部門



石田隆雄選手

今野泰正選手

金子誠司選手

昨年に続いて栄冠の座を獲得したのは、ラリー・ドライバー部門チャンプの栂沢選手のナビを務めた石田隆雄選手(青森)。2位には今野泰正選手(山形)、3位には金子誠司選手(群馬)が入賞しました。ドライバー部門同様、青森勢の健闘ぶりが目立っています。

1位	石田 隆雄	青森	170
2位	今野 泰正	山形	122
3位	金子 誠司	群馬	102
4位	高柳 満	愛知	77
5位	安田 弘美	青森	62
5位	永沢 裕之	青森	62

'91チャレンジカップ7位以下成績

スラローム部門

7	菅野 茂	山形	234
7	荒井 信介	群馬	234
9	千田 俊二	札幌	212
10	福士 文秀	青森	166
11	近藤 健司	香川	152
12	小館 久	青森	146
13	砂塚 明男	山形	134
14	杉本 達也	大阪	124
15	国谷 益男	島根	114
16	岩田 恒慶	群馬	98
17	針田 信夫	岐阜	95
18	田中 肇	島根	48
19	北脇 幹人	島根	31
20	石川 謙二	島根	30
21	黒沼 与一	山形	28
22	杉坂 啓一	島根	27
22	伊東 実	岐阜	27
22	野口 和幸	埼玉	27
25	福間 量彦	島根	26
25	伊吹 浩明	帯広	26
27	竹内 靖博	青森	24
27	船戸 利明	札幌	24
29	幸野 政道	岐阜	22
30	杉山 敏雄	山形	21
31	初田 和弘	島根	20
31	古藤 浩美	島根	20
33	吉原 明	群馬	19
34	山口 義則	帯広	16
34	斎藤 直也	帯広	16

ラリー・ドライバー部門

7	館山 正嗣	青森	68
8	福士 文秀	青森	62
9	上原 力	埼玉	54
10	坂本 均	青森	50
10	城山 光彰	岐阜	50
12	工藤 長実	岩手	48
13	野村 芳久	札幌	37
14	千田 俊二	札幌	36
15	赤羽 政幸	山形	32
16	船津 康一	群馬	30
17	松田 徳之	群馬	26
18	佐藤 一彦	埼玉	25
19	杉本 浩	愛知	22
20	山田 裕之	岐阜	21
21	福原 英治	青森	18
22	細村 謙一	群馬	17

ラリー・ナビゲーター部門

7	山崎 茂樹	青森	50
8	浅沼 高典	岩手	48
9	瀬々 徹	埼玉	45
10	岩崎 政良	埼玉	34
11	内田 昭佳	群馬	32
12	小出 辰彦	愛知	26
12	安藤 朋司	岐阜	26
14	本田 弘	岐阜	23
15	本田 辰彦	岐阜	21
16	巻口 実	札幌	17

千田俊二選手 (CMSC 札幌) 4位入賞!

'92全日本ラリー選手権第2戦 TRCAウインターラリーinあさひかわ

北海道旭川市で開催された、'92全日本ラリー選手権の第2戦、三菱勢ではBクラスに5台の新型を含む8台のミラージュ、Cクラスにギャラン12台、ランサー4台の計16台が参加しました。結果は、Bクラスで三菱ミラージュ4WD、Cクラスで三菱ギャランがそれぞれ優勝し、第1戦のDCCSウインターラリーに続き2クラスで優勝という快挙。ことにBクラスでは三菱ミラージュが1~3位を独占、実に上位7位中の6台を占める圧倒的な強さを見せ、Cクラスでも三菱ギャランが上位7位中5台を占めるなど、昨年同様、三菱車の完勝となったのです。

CMSC勢の活躍ぶりもすばらしく、Cクラスの

4位に千田俊二選手 (CMSC札幌) が入賞しました。熾烈な戦いとなった今回のCクラス。特に第2ステージでは、千田選手と他の3選手とで、SS8までSSごとにトップタイムと奪い合う激しいラリーとなりましたが、最終的に千田選手は2つのSSでトップタイムを記録するなど終盤で好走をみせ、第1ステージ13位から4位へとジャンプアップ。見事な健闘が光りました。

4位健闘の千田選手

また10位には大西康弘選手 (CMSC青森) が入賞しています。各選手共、要所々々で非常にいい走りをみせた全日本ラリー。CMSC勢の一層の活躍が期待されます。



先輩の的確なアドバイス、多くを学んだ初挑戦。

'92 TRCAウインターラリーin旭川 参戦記 CMSC青森 梶沢 宏之

'92全日本ラリー選手権第2戦が旭川市を舞台に開催されました。我がCMSC青森は、全日本常連の三羽鳥こと館山・大西・福士の3選手に私を加えた4クルーでの出場。全日本初挑戦の私にとっては実に心強い限りです。

第1ステージは、常盤公園をPM2:01にスタート。6つのCPとSS1本で構成されています。Cクラス最終ゼッケン (30) の私には、少し緊張していることもあって、スタート時間が非常に待ち遠しいものに思われました。そんな中、先輩達は軽く手を上げ次々とスタートしていきます。ようやく我々も、気を引き締めてスタート。ナビ区間を順調にこなしてSS1へ、コースは常設のバギーコース……。荒

れた路面に気合いとタイヤが空しく空回りして、結局、タイムはダメ! だったので。

2日目の第2ステージは、AM7:01スタート、4つのCPとSS8本。館山さんから、北海道の林道についてアドバイスを受け、いざスタート! SS2、コーナーを2つ3つとクリアし、さっきのアドバイスの的確なことを痛感しつつ、ブラインドコーナーを3速全開で攻めゴールへ。タイムは中間時計、まだまだとは言え、だんだん調子が出てきたように思えました。SS3、スタート後約400m、軽い下りの右コーナー……。実はここで、私の全日本初挑戦は敢なく終わってしまったのですが、いろいろと多くの面で非常に勉強になりました。

チャンスがあれば、もう一度挑戦してみたいと思います。また、B・C地区戦も上位を目指してガンバります。皆さんどうぞ宜しくお願いします。



再挑戦を期する梶沢選手